

海洋環境レポート

平成28年版(平成27年1月～12月データ)



油防除中の巡視艇



第七管区海上保安本部 環境防災課

目 次

第1) 海洋汚染の現状

1 概要	1
図-1 海洋汚染発生確認件数の推移	
図-2 海洋汚染の海域別確認件数	
2 油による汚染	1
表-1 油の汚染による海域別確認件数（平成27年）	
表-2 油の汚染による原因別件数（平成27年）	
3 油以外による汚染	2
表-3 油以外の汚染による海域別確認件数（平成27年）	
表-4 油以外の汚染による原因別件数（平成27年）	
4 海洋汚染の一例	3

第2) 廃棄物等の海洋処分の現状

1 廃棄物排出船とは	4
2 廃棄物排出船の登録状況	4
表-5 廃棄物排出船登録隻数の推移	
3 浚渫活動に伴い発生した水底土砂の現状	5
図-3 水底土砂の現状	

第3) 海岸漂着物の現状

1 概要	6
2 廃ポリタンクの漂着確認状況	6
図-4 ポリ容器の漂着数の推移（県別：過去3年）	
3 医療系廃棄物の漂着確認状況	7
図-5 医療系廃棄物の漂着数の推移（県別：過去3年）	
4 その他漂着物の漂着確認状況	7

第4) 海洋環境保全啓発活動の現状

1 概要	8
2 活動内容	8
3 漂着ゴミ分類調査	10
4 海上保安協力員の活動	10
5 啓発活動実施状況	11
6 図画コンクール	12
受賞作品の紹介	
7 平成27年 海岸漂着ゴミマップ	

第1) 海洋汚染の現状

1 概要

平成27年に第七管区海上保安本部管内で確認された海洋汚染の発生件数は、54件で前年に比べ6件増加しています。

汚染の内訳は、油による汚染が32件、油以外による汚染が22件でした。(図-1参照)

海域別にみると、九州北西海域が27件と最も多く、関門海峡12件、日本海沿岸3件、瀬戸内海西部10件、豊後水道1件、有明海1件でした。(図-2参照)

図-1 海洋汚染発生確認件数の推移

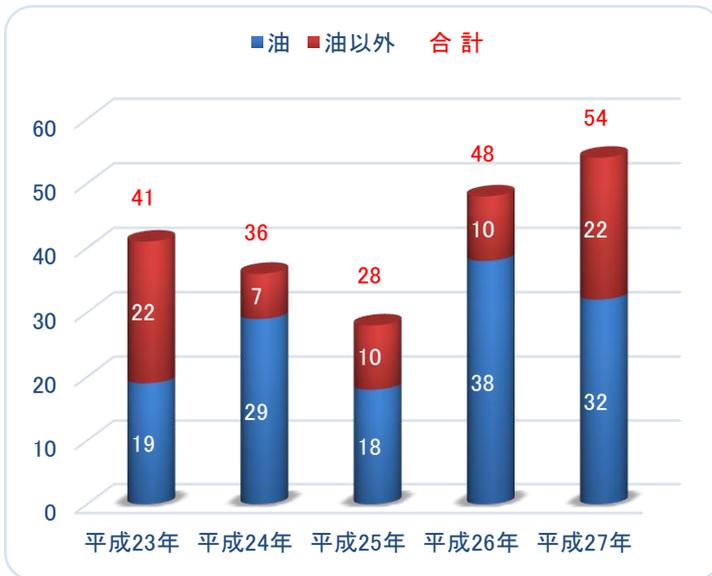


図-2 海洋汚染の海域別確認件数



2 油による汚染

平成27年に、当管区で確認された油による汚染は、32件で昨年に比べ6件減少しています。

排出源は、船舶からの排出が24件、陸上からの排出が2件、排出源不明が6件でした。(表-1参照)

表-1 油の汚染による海域別確認件数(平成27年)

海域区分	瀬戸内海西部	関門海峡	豊後水道	有明海	九州北西海域	日本海沿岸	合計
船舶	0	5	1	1	14	3	24
陸上	0	0	0	0	2	0	2
不明	3	0	0	0	3	0	6
合計	3	5	1	1	19	3	32

原因別にみると、燃料バルブ誤操作等の過失による汚染が10件と最も多く、次いで配管等の経年劣化による破損等の不可抗力による汚染が6件、海難による汚染が6件、原因不明の汚染が6件、故意による汚染が4件でした。(表-2参照)

表一 2 油の汚染による原因別件数（平成27年）

海域 区分	瀬戸内海 西部	関門海峡	豊後水道	有明海	九州北 西海域	日本海 沿岸	合計
故意	0	1	0	0	3	0	4
過失	0	3	1	1	5	0	10
不可抗力	0	0	0	0	6	0	6
海難	0	1	0	0	2	3	6
不明	3	0	0	0	3	0	6
合計	3	5	1	1	19	3	32

3 油以外による汚染

油以外による汚染は22件で、内訳は廃棄物による汚染が10件と最も多く、有害液体物質の汚染が2件、工場排水による汚染が2件、その他（土砂等運搬船の荷役時における海面散乱物の脱落防止措置不適切）8件でした。

排出源は、船舶からの排出が10件（廃棄物1件・有害液体1件・その他8件）、陸上からの排出が12件（廃棄物9件・有害液体1件・工場排水2件）でした。（表一3参照）

表一 3 油以外の汚染による海域別確認件数（平成27年）

海域 種類		瀬戸内 海西部	関門海峡	豊後水道	有明海	九州北 西海域	日本海 沿岸	合計
廃棄物	船舶	1	0	0	0	0	0	1
	陸上	6	2	0	0	1	0	9
有害液体	船舶	0	0	0	0	1	0	1
	陸上	0	1	0	0	0	0	1
工場排水 (陸上)		0	0	0	0	2	0	2
その他 (船舶)		0	4	0	0	4	0	8
合計		7	7	0	0	8	0	22

原因別に見ると、故意によるものが21件、過失によるものが1件でした。（表一4参照）

表一 4 油以外の汚染による原因別件数（平成27年）

海域 区分	瀬戸内 海西部	関門海峡	豊後水道	有明海	九州北 西海域	日本海 沿岸	合計
故意	7	6	0	0	8	0	21
過失	0	1	0	0	0	0	1
不可抗力	0	0	0	0	0	0	0
海難	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0
合計	7	7	0	0	8	0	22

4 海洋汚染の一例



油を排出しながら航行する船舶



原因不明の海上浮流油



海上に流出した有害液体を含む液体

第2) 廃棄物等の海洋処分の現状

1 廃棄物排出船とは

法律に定められた廃棄物の海洋投入処分に常用するため、海上保安庁に登録されている船舶です。

廃棄物が適切に海洋投入されるために必要な設備が整っており、船体に黄色い線と登録番号が表示されているのが特徴です。

番号の表示例 ⇒ **排07-1234**



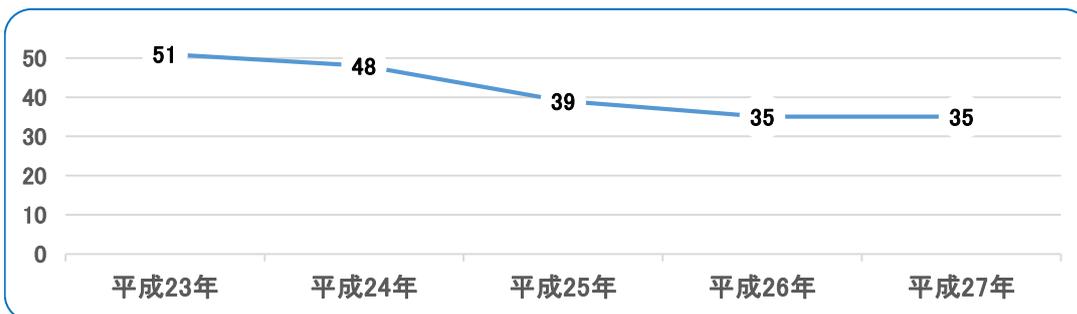
07 ⇒ 第七管区海上保安本部を表す

2 廃棄物排出船の登録状況

平成27年12月31日現在、七管区内では35隻の廃棄物排出船が登録されています。(表-5参照)。

廃棄物の海洋投入処分は原則禁止となっていますが、やむを得ず海洋投入処分する場合は、環境大臣の許可及び海上保安庁長官の確認が必要になります。(P5参照)

表-5 廃棄物排出船登録隻数の推移



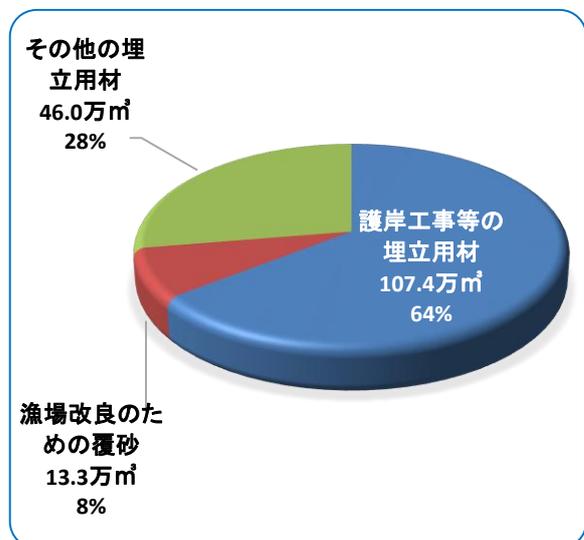
3 浚渫活動に伴い発生した水底土砂の現状

平成27年に、七管区内で登録している廃棄物排出船を使用して、浚渫活動に伴い発生した水底土砂約166.7万³mが海洋投入されていることが確認されています。

これらの水底土砂は全て、護岸工事等の埋立や漁場改良のための海底覆砂等の用材として有効利用されていることが確認されています。(図-3参照)

※ 海洋投入された水底土砂は、海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律(昭和45年法律第136号)第10条第2項第5号口の政令で定める基準に適合したものです。

図-3 水底土砂の現状



廃棄物の海洋処分は原則禁止に!!

平成19年4月1日からやむを得ず廃棄物を海洋投入処分する場合は、環境大臣の許可及び海上保安庁長官の確認が必要となりました。

許可を受けずに排出した場合は、1千万円以下の罰金が科せられます。

- 環境大臣の許可については、環境省のホームページをご覧ください。

(環境大臣の許可の発給は、通常3ヶ月程度かかります。)

<http://www.env.go.jp/info/one-stop/genre/#廃棄物処理>

- 海上保安庁長官の確認については、海上保安庁のホームページをご覧ください。

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/ope/apply/env04/html>

- 確認の申請窓口については、最寄りの海上保安部へお問い合わせください。

官 署 名	郵便番号	所 在 地	電 話 番 号
仙 崎 海 上 保 安 部	759-4106	山口県長門市仙崎 1026-2	0837-26-0240
門 司 海 上 保 安 部	801-0841	北九州市門司区西海岸 1-3-10	093-321-3215
若 松 海 上 保 安 部	808-0034	北九州市若松区本町 1-14-12	093-761-4353
福 岡 海 上 保 安 部	812-0031	福岡市博多区沖浜町 8-1	092-281-5865
三 池 海 上 保 安 部	836-0061	福岡県大牟田市新港町 1	0944-53-0522
唐 津 海 上 保 安 部	847-0861	佐賀県唐津市二夕子 3-216-2	0955-74-4321
長 崎 海 上 保 安 部	850-0921	長崎県長崎市松ヶ枝町 7-29	095-827-5134
佐 世 保 海 上 保 安 部	857-0852	長崎県佐世保市干尽町 4-1	0956-31-6003
対 馬 海 上 保 安 部	817-0016	長崎県対馬市厳原町東里 341-42	0920-52-0118
大 分 海 上 保 安 部	870-0107	大分県大分市大字海原字地浜 916-5	097-521-0114

第3) 海岸漂着物の現状

1 概要

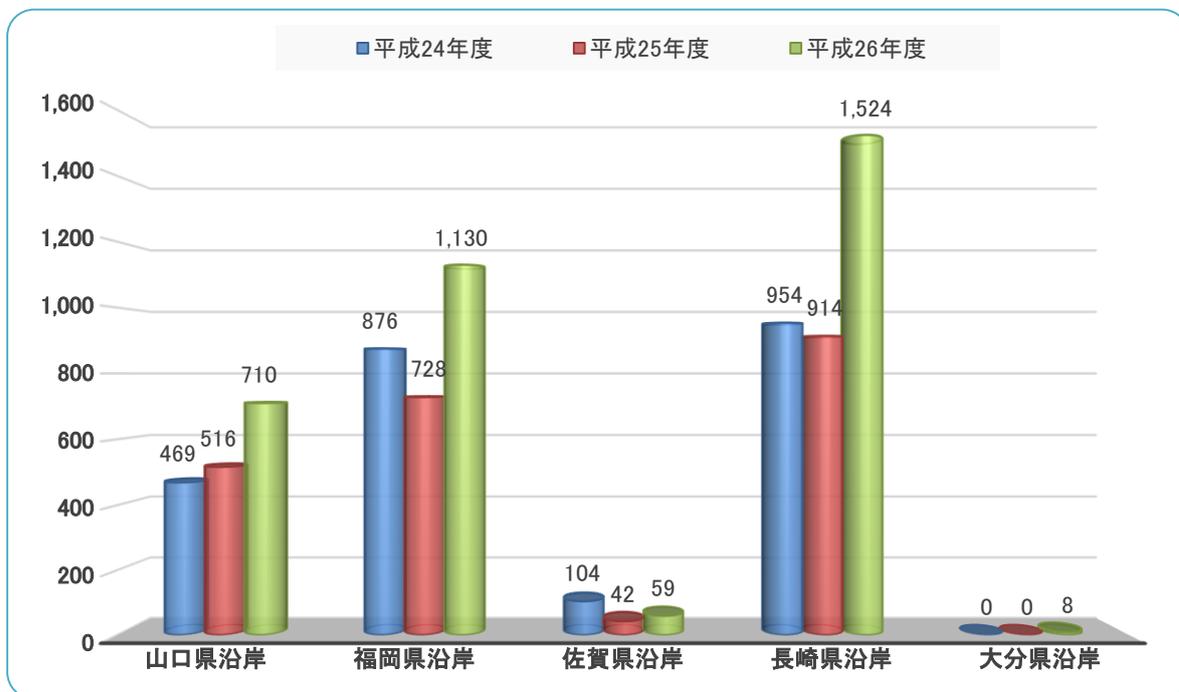
当管区の海岸において、毎年冬場を中心に外国製と考えられるポリ容器及び薬瓶や注射器等の医療系廃棄物の漂着が多く確認されています。

2 ポリ容器の漂着状況

環境省の発表によると、平成26年度に漂着したポリ容器は、山口県沿岸に710個、福岡県沿岸に1,130個、佐賀県沿岸に59個、長崎県沿岸に1,524個が確認されています。(図-4参照)

ポリ容器の中には、韓国語や中国語が表記された外国製のものが多数確認されており、また強酸性液体や強アルカリ性液体が残っているものも確認されていますので、発見した場合は、むやみに触らず、最寄りの地方公共団体や海上保安部署に通報して下さい。

図-4 ポリ容器の漂着数の推移(県別:過去3年)



※ 数値は環境省まとめ



海岸に打ち上がったポリ容器



韓国語で表示されたポリ容器

3 医療系廃棄物の漂着確認状況

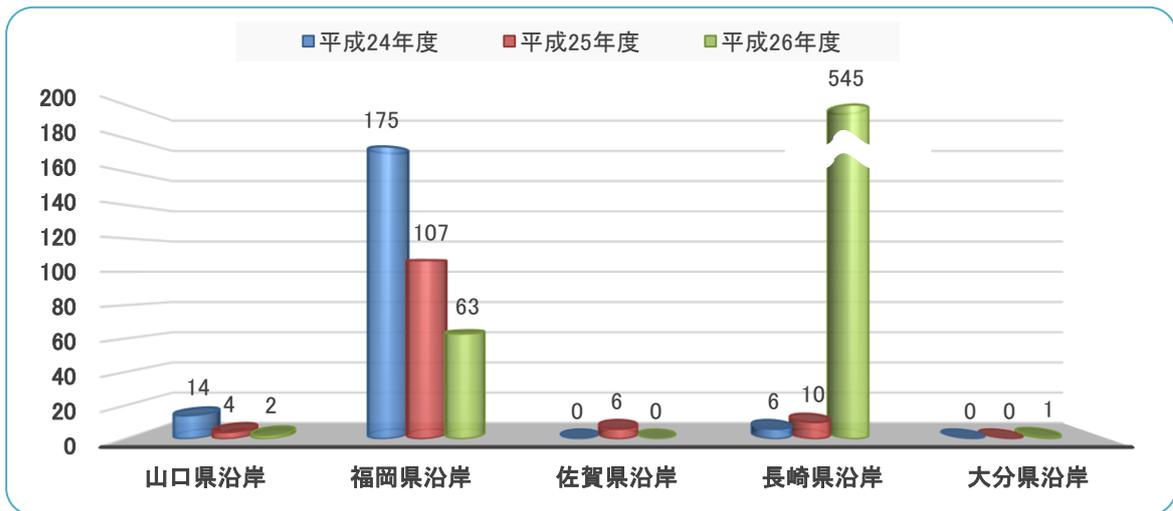
環境省の発表によると、平成26年度に漂着した医療系廃棄物は、山口県沿岸に2個、福岡県沿岸に63個、長崎県沿岸に545個、大分県沿岸に1個の漂着が確認されています。(図-5参照)

医療系廃棄物が発見された場合、地方公共団体が回収し処理を行っています。

医療系廃棄物の中には、注射器や内容物が残っている薬瓶も確認されています。

発見した場合には、感染被害のおそれもあることからむやみに触らず、最寄りの地方公共団体や海上保安部署に通報して下さい。

図-5 医療系廃棄物の漂着確認の推移 (県別：過去3年)



※ 数値は環境省まとめ

4 その他廃棄物の漂着確認状況

当管区の各県沿岸には、ポリ容器や医療系廃棄物の他にも、日常生活で発生する家庭ごみや破損した漁具類、また、外国製と考えられるごみも漂着しているのが確認されています。



韓国語表記のペットボトル



中国語表記のペットボトル



漁具 (標識ブイ)



漁具 (かご)

第4) 海洋環境保全啓発活動の現状

1 概要

環境基本法の趣旨に則り、的確な環境保全施策を展開していくため、海事及び漁業関係者のみならず広く一般市民の方も対象に、海洋環境保全思想の普及、啓発を積極的に推進しています。

2 活動内容

管内の各海上保安部署において、6月の海洋環境保全推進月間を中心に、園児及び小中学生を対象とした海洋環境教室、海事・漁業関係者及び一般市民を対象とした海洋汚染防止講習会等を開催しました。

そのほか、環境パネル展示、リーフレット等の啓発物品配布、のぼりや電光掲示板による周知、訪船指導、地方公共団体と連携した合同パトロールや海浜清掃等に併せた啓発活動を実施しました。



寸劇を交えての海洋環境保全教室



海洋環境保全教室での水質検査



海洋汚染防止講習会



海洋汚染防止講習会



環境パネル展



リーフレット配布



合同パトロール出発式



廃棄物投棄防止合同パトロール



海浜清掃



海浜清掃



訪船指導



電光掲示板による啓発活動

3 漂着ゴミ分類調査

管内の各海上保安部署では、主に小・中学生及び高校生の皆さんの協力を得て、海浜清掃活動に併せて海岸の漂着ゴミ分類調査を実施しています。

平成27年は、仙崎・若松・福岡・三池・宇部地区の7箇所の海岸において、1,957人が参加し、合計4,536kgの漂着ゴミを回収しました。

そのうち5箇所の海岸では、回収したゴミを分類調査した結果、プラスチック類や発泡スチロール等の石油系製品が、半数以上を占めていることが分かりました。(末尾の平成27年 海岸漂着ゴミマップ参照)



ゴミ回収の様子



漂着ゴミ分類調査の様子

4 海上保安協力員の活動

海上保安協力員は、一般の方の中から海上保安業務への深い理解と積極的な協力が得られるボランティア精神旺盛な方を「海上保安協力員」として全国の海上保安協会支部に配置しています。

海上保安協力員は、それぞれの地域に密着し、海浜等の防犯パトロール、不審事象や海洋汚染の通報、海事・漁業関係者及び一般市民への海上防犯及び海洋環境保全思想の普及・啓発活動を行っています。

平成28年4月1日現在、当管内では117名の方が海上保安協力員に指名されています。



海浜パトロールの様子



海洋環境保全教室の様子

5 啓発活動実施状況

活動分類	活動内容分類	主な活動内容等	実施回数	参加人数 実施隻数 実施箇所
指導	講習会	・海上保安協力員連絡会議 ・海洋汚染防止講習会等	26回	537名
	訪船指導	・漁協・マリーナ等の訪問指導	116回	320隻
	訪問指導	・漁協・海事関係機関の訪問指導	59回	210箇所
	海上工事 作業指導	・海上工事事業者に対する指導	10回	30名
啓発活動	周知・広報関連	・横断幕や掲示板等による周知	520回	
	海上保安官が直接的に行う啓発活動	・リーフレット配布 ・合同パトロール等	30回	2379名
	環境パネル展	・イベントでの環境パネル展示	32回	7300名
	講習会 (一般市民向け)	・会議等での講習会	11回	381名
	講習会 (簡易水質実験)	・職場体験学習での環境教室	7回	46名
	講習会 (漂着ゴミ分類調査)	・海岸清掃に併せた漂着ゴミ分類調査	8回	2352名
	講習会 (紙芝居等)	・環境教室での紙芝居等	14回	570名
	講習会 (小中学生等)	・職場体験学習での講習会等	15回	625名
その他	図画コンクール 関連	・作品募集、表彰式、展示会等	157回	45679名
	その他	・海浜清掃等	26回	7992名

6 図画コンクール

海上保安庁では、小・中学生への海洋環境保全思想の普及・啓発を目的として、海上保安協会の共催により、6月1日から同年9月9日までの間、「第16回未来に残そう青い海・海上保安庁図画コンクール」の作品募集を行いました。

当管区では、総数4,381点(小学生低学年の部1,800点、小学生高学年の部1,738点、中学生の部843点)の応募がありました。

応募作品は、福岡県美術協会の会員による審査を経て、海上保安庁(本庁)に送られ、厳正な審査ののち、小学生高学年の部の応募作品1点が海上保安庁長官賞選ばれました。

他にも、第七管区海上保安本部長賞(各部門1点・計3点)、海上保安協会門司地方本部長賞(各部門1点・計3点)、優秀賞(各部門1点・計3点)を選出し、各海上保安部署において表彰式や作品展示会を行ないました。



表彰式

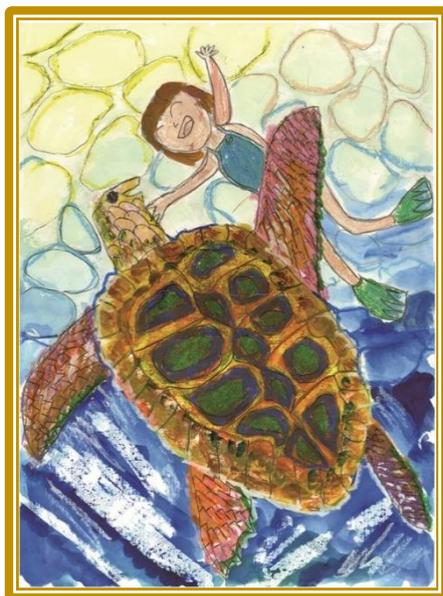


作品展示会

第16回未来に残そう青い海・海上保安庁図画コンクール受賞作品



海上保安庁長官賞
(小学生高学年の部)



新原 佳奈 さん

おめでとうございます



©JCGF



第七管区海上保安本部長賞

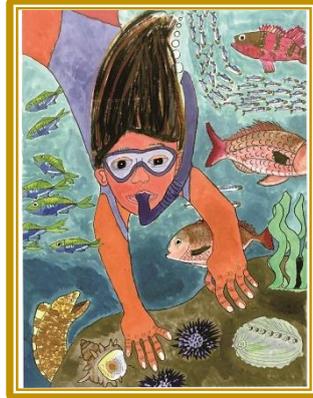
(小学生低学年の部)

(小学生高学年の部)

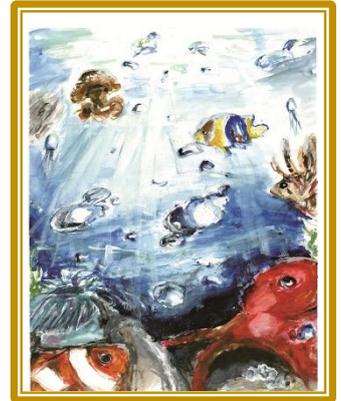
(中学生の部)



新立 愛華 さん



藤田 瑛美 さん



末永 こなつ さん



海上保安協会門司地方本部長賞

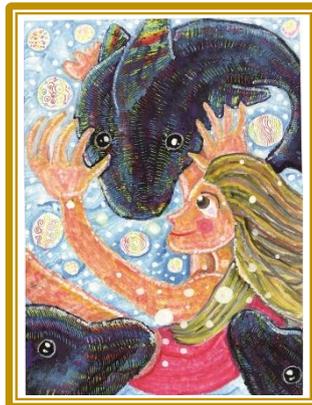
(小学生低学年の部)

(小学生高学年の部)

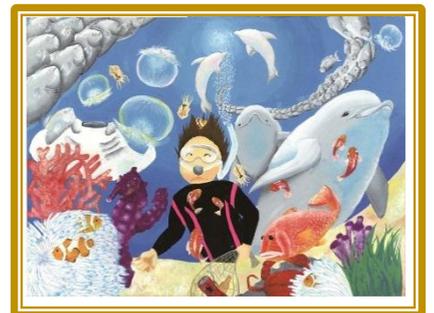
(中学生の部)



大津 柚奈 さん



松永 桃花 さん



松山 楓花 さん

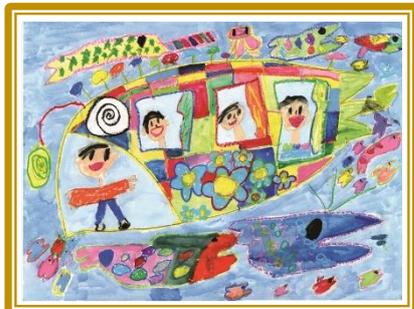


優秀賞

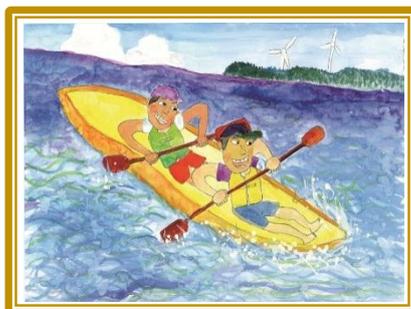
(小学生低学年の部)

(小学生高学年の部)

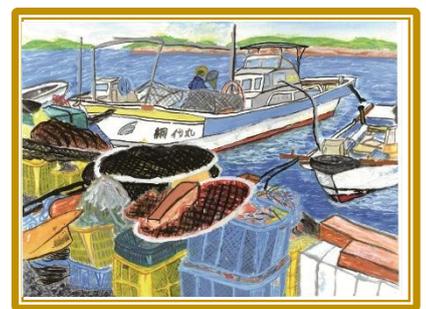
(中学生の部)



柳原 寿哉 さん



木寺 将 さん



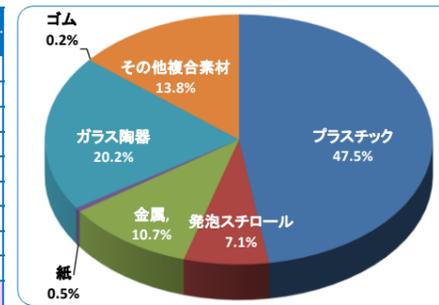
浦馬場 雅斗 さん

平成27年

海岸漂着ゴミマップ

漂着ゴミ分類調査結果

	平成25年		平成26年		平成27年	
	個数	%	個数	%	個数	%
プラスチック	36,391	76.0%	2,583	66.5%	1,687	47.5%
発泡スチロール	6,604	13.8%	289	7.4%	251	7.1%
金属	1,660	3.5%	108	2.8%	380	10.7%
紙	1,216	2.5%	16	0.4%	18	0.5%
ガラス・陶器	1,130	2.4%	507	13.1%	716	20.2%
木	745	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
ゴム	129	0.3%	1	0.0%	7	0.2%
布	6	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他複合素材	0	0.0%	380	9.8%	491	13.8%
合計	47,881	100.0%	3,884	100.0%	3,550	100.0%



漂着ゴミの種類別ワースト10

順位	漂着ゴミの種類	個数
1	ガラスや陶器の破片	526
2	硬化プラスチック破片	428
3	建築資材(柱・釘・タンク板等)	354
4	飲料用プラスチック(ペットボトル)	335
5	飲料缶	221
6	飲料ガラスびん	190
7	発泡スチロール破片	159
8	飲料用ボトルキャップ(金属)	155
9	飲料用ボトルキャップ(プラスチック)	135
10	プラスチックシートや袋の破片	127

参加人数

	平成25年	平成26年	平成27年
参加人数	781人	1141人	1957人
回収量	16,415kg	3,137kg	4,536kg

海上保安庁では、主に小・中学生の皆さんのご協力を得て海岸の漂着ゴミの分類調査を実施しています。

平成27年は、七管区内7ヶ所の海岸で1,957人が参加し、約4,536kgのゴミを回収しました。

回収ゴミを分類調査した結果、海岸にはさまざまなゴミが漂着し、その中でも**プラスチック破片・ペットボトル・ボトルキャップ・発泡スチロール**等の石油系の製品が、**全体の約半数以上**を占めていることが分かりました。

福岡県北九州市(藍島白洲)
平成27年6月6日
57名参加 分類量300kg
ボランティアのみなさん

山口県長門市(二位ノ浜海水浴場)
平成27年5月1日
193名参加 分類量600kg
山口県立緑洋高等学校日置校舎のみなさん

※ ここに掲載されている分類調査結果は、一般社団法人JEANIに送られ、日本及び国際的な海洋ごみの問題解決のために利用されています。

福岡県福津市(宮地浜・津屋崎海岸)
平成27年5月24日
74名参加 分類量1kg
ボランティアのみなさん



山口県長門市(大越の浜)
平成27年6月17日
69名参加 分類量135kg
山口県 長門市立通小学校のみなさん

熊本県荒尾市(打越海岸)
平成27年6月23日
69名参加 分類量135kg
熊本県 荒尾市立荒尾第一小学校のみなさん

山口県宇部市(東岐波海岸及び西岐波海岸)
平成27年6月14日
1500名参加 回収量3,300kg
山口県 宇部市子ども会のみなさん

清掃のみ実施
分類調査は、実施せず。

各地の海岸で、たくさんの種類のゴミ漂着が、確認されています。

⚠️ ゴミの中には、有害な液体が入った容器の漂着も確認されています。危険なので、絶対に手を触れないで下さい。

熊本県五木郡(長洲海岸)
平成26年8月29日
16名参加 分類量100kg
熊本県 長洲町小中学生のみなさん

清掃のみ実施
分類調査は、実施せず。

未来に残そう青い海

JCG JAPAN COAST GUARD
海上保安庁 第七管区 海上保安本部
<http://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/>

JAPAN COAST GUARD FOUNDATION
公益財団法人 海上保安協会門司地方本部
<http://www.jcga.or.jp/>

